

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2021年 7月



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpine Federation

2021年 7月 1日発行 通巻339号

コロナはつづく 気をゆるめるな！

うつらない うつさない を徹底を！

7月号目次

・ 目 次	2
・ 県連6月理事会報告（ZOOM会議）	3
・ 山行報告（平標山）	5
・ 全国機関紙会議報告	6
・ 〃 参加感想	7
・ 全国ハイキング活動者参加感想	8
・ 〃 参加感想	10
・ 全国ハイキングアンケート集約	11
・ 7月・8月予定表	16

今月号は、全国連盟行事報告が主になりました。

1, 全国機関紙（登山時報）会議（6月20日10時～15時）

・参加者3名の報告を掲載

2, 全国ハイキング活動者会議（6月26日13時～17時）

・参加者2名の感想を掲載

・アンケート調査報告を掲載

会員数の多少による入退会者数など参考にして下さい。

「登山時報」に対する、会、個人の意見・要望をお寄せ下さい。

表 紙 説 明

山の会の機関誌に山行報告がない事を大変さびしく思っています。

7月号には全く投稿がありませんでした。

野田理事長との電話で「平標山」に行くことをチラッと聞き、強引に山行報告をお願いしました。

7月・8月、絶好の夏山シーズンを楽しんで下さい。

そして、会山行・個人山行の夏山報告をお願いします。

（写真は 平標山から千の倉山へのお花畑の縦走路）

—— 編集者 ——

千葉県勤労者山岳連盟 2021 年 6 月理事会報告

報告者 酒井莊多（船橋勤労者山の会）

【日時・場所】2021 年 6 月 17 日（木）19:00～21:00 ズームにて開催

【出席理事】かがりび山の会、君津ケルン山の会、岳人あびこ、ちば山の会、千葉こまくさハイキングクラブ、東葛山の会、船橋勤労者山の会、ふわくハイキングサークル、茂原道標山の会、松戸山の会、まつど遠足クラブ1年さくら組、山の会らんたん、山の会「岳樺クラブ」

【出席役員】会長：広木国昭、理事長：野田久生、副理事長：鶴田秀雄、教育遭難対策委員長：伊東春正、自然保護委員長：菅井修、ハイキング委員長：田中康夫、海外委員長：安彦秀夫、
全国理事 石川昌（船橋勤労者山の会） 山本尚徳（かがりび山の会）

参加者 21 名

【議 事】

1. 各委員会活動報告：

1) 役員会（広木）

6 月 20 日に全国連盟・機関紙会議が開催。広木会長・野田理事長・安彦海外委員長が ZOOM で参加。千葉県連は「登山時報・労山ニュース・メールニュースをまとめて、PDF 化し無料で全会員に配布する」を提言する。

2) 教育遭難対策委員（伊東）

今年の事故報告はゼロで 5 月の事故報告も無い。7 月に日本勤労者山岳連盟の救助技術交流会が開催される。伊東委員長が参加する。

3) 自然保護委員（菅井）

7 月 10—11 日京都で日本勤労者山岳連盟の自然保護会議が開催される。

4) ハイキング委員会（田中）

6 月 24 日に日本勤労者山岳連盟のハイキング会議が開催される。当県連から 2 名参加する。ウィークデイ山行については、ワクチン接種後の秋以降くらいとする。

5) 海外委員会（安彦）

6 月 10 日に今年度第 1 回海外委員会をズームで開催した。次回は 9 月 9 日開催予定。国外航空機が殆ど飛んでいないので、今年度は講演会・講習会とする。

6) 組織委員会（野田）

昨年度はコロナ影響調査報告を行ったが、今年度も同様調査を 1～6 月ベースに行う。各会における、会山行及び個人山行の山行回数と山行人数を 7 月 10 日迄に出してもらうよう近々案内する。

- ・深草理事（岳人あびこ）から以下の質疑があった。

- 組織委員会の「コロナ禍における山行活動に関するアンケート」に関して個人山行と会山行の取り扱いについて質問があった。

- ・会員が行うすべての山行の安全を確保するという観点から、従来から個人山行も会山行と同様の山行管理をする事をお願いしている（広木）

7) 機関紙委員会 (広木)

ちばニュースへの投稿が少なくなっている。山行自粛等の影響と思われる。

リニューアルを視野に入れて新しい企画等を考えてゆく。

船橋勤労者山の会は数年前から会報をPDF化し全員にEメール配信しているので、登山時報がPDF化されれば便利。

8) 女性委員会 (広木)

コロナ禍で何もできていない。9月から委員会をズームで出来るか検討する。

2. 各会理事自己紹介、会活動状況報告

- ① 君津ケルン山の会 (永田) : 会山行は月1回やっている。尾瀬会山行を実施した。7-9月はコロナで休みとなろう。
Eメールが出来ない会員が多いのでラインでやり取りしている。
- ② 山の会らんたん (佐藤) : 山行は年間計画通りやっている。
- ③ かがり火山の会 (吉武) : 会山行は中止している。1-6月の個人山行は活発にやっている。
- ④ 岳人あびこ (深草) : 年次総会は対面でやったが、定例会はズームでやっている。記念山行を企画。
 - ・コロナ禍の山行のあり方について質問があり広木会長より以下の説明があった。山の会として登山をするなどとは言えない、但し山行を行うに当たっては以下に留意して山行を行って欲しい。
 - ・新型コロナ感染含む事故防止に対して、十分な配慮をお願いします。
 - ・コロナ禍における登山自粛や山行管理を強化するあまり、会員が無届山行に向かうような環境を作らないでほしい。
- ⑤ 茂原道標山の会 (今井) : 50年の歴史のある会であり、県連には継続加盟してゆく。山行は年間計画通り実施している。4月4回、6月2回、6月2回山行。少人数・車移動泊りはソロテント。
- ⑥ 松戸山の会 (渡辺) : 山行計画書は受理していない。

3. 全国連盟活動報告

【石川全国理事】

- ・6月19日に開催される、全国拡大理事会が開催されるので。
決議・決定集がHPアップ或いはメール配信が可能かについて検討をする。
- ・コロナによる山行自粛で、無届山行や報告されない事故について危惧している。
- ・5月12日~6月1日の事故報告は8件。そのうち2件は登攀中の事故で重傷。
- ・7月の全国救助技術交流会は、予定通り福岡で開催する。

【山本全国理事】

- ・全国登山研究集会に向けての、課題別講演会を7月15日実施予定ですが、県連理事会と同日のため、6月19日全国拡大理事会で日程変更の確認をする。

4. 今後の予定 :

- ・次回理事会は7月15日。状況により可能なら対面も検討する。
- ・8月理事会は休み。9月以降は対面とズーム相互にやることを考えている。

以 上

2021 年 6 月 18 日（金）平標山、仙ノ倉山 山行記録

かがりび山の会 野田久生

梅雨の晴れ間を狙って平標山、仙ノ倉山に行く。当日幸運にも現地は、薄曇り時々晴れの絶好の登山日和となり上越国境の登山を楽しむことができました。

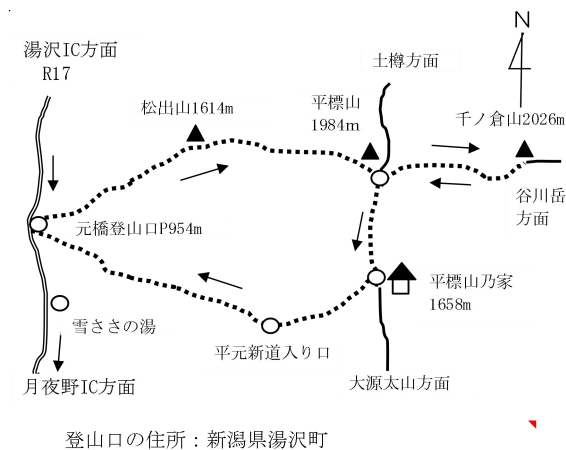
柏発 4:00⇒柏 IC4:20⇒関越道⇒湯沢 IC6:35⇒元橋登山口駐車場着 7:00

P 発 7:20⇒鉄塔 8:20-8:30⇒松出山 9:05-9:20⇒平標山 10:40-11:00⇒（お花畑）⇒
仙ノ倉山 11:45-12:00⇒平標山 12:50-13:00⇒平標山乃家 13:40-13:55⇒林道出合
14:40⇒P 着 15:40 【所要時間：8 時間 20 分】

P 発 15:50⇒雪ささの湯（入浴）⇒月夜野 IC17:20⇒流山 IC19:40⇒柏 GS19:50 解散
参加者 2 人

早朝 4 時を過ぎると明るくなってくる。現地の天気を気にしながら関越トンネルを過ぎると新潟方面は薄曇り、時々晴れ間も見える。登山口駐車場は平日にも関わらず 80 台くらい駐車している。平標山の人気ぶりに驚く。松出山まで約 2 時間、ここまできると平標山が見えてくる。この先展望の良い尾根道を平標山目指して登る。眼下に苗場プリンスホテル、スキー場、遠くに独特の形をした苗場山が見える。平標山頂で一休み。この先の仙ノ倉山までの広々とした平坦な尾根道が良く見える。山頂直下に見事なお花畑があり、白い花が満開である。仙ノ倉山まで約 50 分景色を満喫しながら快適な尾根道を歩く。山頂からは、薄曇りであるが谷川岳方面も良く見える。景色を十分満喫した後、山の家経由で下山する。

平標山、仙ノ倉山のおおらかな山容に感動した山行でした。帰りは湯沢町の雪ささの湯でさっぱりし 17 号で月夜野 IC から高速に入り柏に帰った。充実した山行でした。



仙ノ倉山山頂 2026m

「登山時報」の今後のあり方を議論する「全国機関誌会議」参加報告

千葉県連盟 野田理事長（かがりび山の会）

日 時 2021 年 6 月 20 日（日）10:00～14:30

場 所 全国労山事務所（全国連機関誌検討委員）、地方連盟からは ZOOM による参加

参加者 31 人（会場参加者含む）

千葉県連参加者：広木会長、野田理事長、安彦役員

1. 会議の主旨

読者数が減少している「登山時報」を今後どうするかについて議論した。

2. 千葉県連からの提案

6 月県連理事会で協議した内容を事前に全国連盟に送付し説明を行った。

千葉県連の提案「登山時報の今後について」

① 現在全国連盟から発行されている、労山ニュース、メールニュースを登山時報に一体化することにより、重複を避け経費削減を図る。

② 登山時報の発行について

- ・ 案 1 会員全員に無料配布する。
- ・ 案 2 紙での配布は廃止、HP に掲載する。

上記により、全国連盟の情報をタイムリーに全会員に発信でき、全国組織への関心を高めることが期待でき、更に案 2 であれば、経費削減も期待できる。

3. 参加者からの意見等

- 1) 各会の機関誌（会報）も最近は経費節減面から電子化している会が殆どだが、電子化に対応できない会員への対応も考慮してほしい・・・旨の要望もあった。
- 2) 労山ニュース、メールニュースを登山時報にまとめることには、殆どの参加者が賛成した。
- 3) 登山時報の発行について、ほとんどの参加者が全員無料配布を希望している。電子データでの配布や HP への掲載も必要との意見が多かった。
- 4) 登山時報への一般会計からの赤字補填については疑問の声が多かった。
- 5) 地方連盟には特徴があり、登山時報に対する関心の温度差が感じられた。
- 6) 登山文化継承のためにも登山時報は必要との意見もあった。

（付 記）

千葉県連 会長 広木 国昭

登山時報の発行に関する問題点（第 34 期第 1 回評議会資料）

- 1、4 年間で 400 部の減少：150 万円減収、ここ 1 年間で 250 部減少：90 万円減収
機関誌発行関係者の人件費も一般会計から支出、これは大きな無理である。
- 2、全国連盟の機関誌の位置付けなので廃刊は出来ないの、一般会計からの助成金で発行している。この事は重大な問題であり、正当な理由ではない。
- 3、登山時報の減誌は、数年間続いている大幅な会員減少等と同じく組織の弱体化に関連がある。組織強化、会員数回復に対する、有効かつ具体的な方針が示されない事が問題である。

以 上

『全国機関誌会議:6月20日(日)』に参加して

安彦秀夫（東葛山の会）

全国労山事務所で開催された『全国機関誌会議』に Zoom で参加しました。

私が参加した背景は、『登山時報の実情などを改善したい…』という想いからです。

『登山時報』は、『全国連盟の機関誌』として発行されていますが、現在の有料購読者は、会員の約 13% の 2,300 名弱しかいません。これで『機関誌』と言えるのでしょうか？ 有料購読者が少ない…ということで毎年赤字が続いており、今年是一般会計から編集支援金として『300 万円』が資金投入（支出）されており、この金額は年々増加傾向です。（参考）会員数：17,553 名/2020 年 11 月末

現在、機関誌として 3 誌が発行されていますが、大半の掲載内容が重複しています。

- ①**登山時報**（月刊、有料）各会宛に送付、
- ②**労山 ROUSAN ニュース**（現在は不定期、連盟費に含まれる）各会宛に送付、
- ③**労山全国連盟メールニュース**（現在は不定期）県連経由でメール配信

また、①と②は、例会などで配布しているケースが多いようです。しかし、コロナ禍のため例会開催が難しく手渡しができずに郵送したり、例会回数が減ったために翌月にならないと配布できないケースもあるようです。更に、会によっては、②は送付されても多くが事務所に積んだままになったり、廃棄しているケースもあるようです。

以上のことより、**上記 3 誌を月間の『登山時報』に集約し、掲載内容を再検討し、全会員に無料配布する**ことを提案しました。しかし、この場合、経費が膨らむことが想定されるので、更に突っ込んで、各会で配布に時間と経費を掛けるケースもあることより、**PDF 化してホームページにタイムリーに掲載する**ことを提案しました。

現在、『登山時報』は、ホームページに 3 ヶ月遅れで掲載されています。ということは、ホームページへの掲載は、技術的にも何ら問題ない…ということです。

（参考）『労山 ROUSAN ニュース』もホームページに掲載されています。

仮に、紙ベースでほしい会員に対しては、各会で工夫をして対応できるのではないかと考えます。

僅かな連盟会員のみしか読まない機関誌では、本来の機関誌の役割を果たしていないと考えます。一般会計から多額の支援金を支出し続けることは、止めるべきです。1 日も早く方針転換をしてほしい…と強く思います。（2021/6/22/Tue.）



『全国ハイキング活動者会議』に参加して思うこと

安彦秀夫（東葛山の会）

全国労山事務所で6月26日（土）に開催された『全国ハイキング活動者会議』に、昨年2021年春から続いているコロナ禍で、全国のハイキングクラブや山岳会がどのような活動をしているのか…を直接聞いてみたい…という思いからZoomで参加しました。

参加者：会場（労山事務所）→ 10名（司会から会議冒頭で報告あり）

Zoom → 34名（1ヶ所で3名参加あり）Zoom画面より判断

*千葉県連からの参加者：5名（会場1名、Zoom4名）

初めに、田上ハイキング委員長から『基調報告』があり、その後、北海道から会場に参加した『スマイル・マウンテン・クラブ（道央）』の佐藤さん（写真）より、パワーポイントの資料を画面共有して報告がありました。

続いて、事前に『活動報告文』が提出されている5会の自宅（？）からZoomを通して報告がありました。



報告を全て終了後、フリートークになり、思い思いの発言が飛び交いました。その中で、特に強く印象に残ったことについて書きます。

1) 個人山行禁止の会があった！（コロナ禍に関係なく）

個人山行（自主山行）を禁じ、全て会定例山行を実施している会がありました。それは、個人山行を認めると、会員が多いのでグループ化されがちになるので、全て会報などで公開し参加者を募集する…ということでした。

結果として、年間を通してほぼ毎日山に行っている状況になっているが、リーダーの確保には苦労している…とのことでした。会員数130余名の会でした。

<感想>

『個人山行禁止』を聞いてビックリしました。他のZoom参加者からも同様な反応があったように感じました。それと同時に、理由を聞いて納得する部分もありました。会員数100名を超える会で実施しているということは、人材豊富でなければできないこと…と感じました。それでも、リーダー不足に悩んでいることを聞き、2度ビックリしました。

会の方針なので、一概には言いにくいことですが、それを認めた上で入会し活動しているので、その会としては正しい（？）方針なのかもしれません。しかし、私は、マネはできません。否、マネしたいとも思いません。

2) リーダー育成方法は…？

①『連れていく人』と『連れていってもらう人』がいることを解決できないか…？

②『リーダー』を担う人が少なく、固定化してしまいがちだが、解決策は…？

独立した登山者をどのように育成したら良いのか…を悩んでいる（課題にしている）会が多い印象を受けました。

地方連盟や自会が開催するハイキング講習会に積極的に参加するよう呼びかけ、終了後には、更にステップアップした講習会にも参加するように呼び掛けたりしている会や、講習会参加者同士で競争意識が芽生え、自らステップアップしてリーダーに成長する人も出てきている…という報告もありました。

机上講習テキストとして『ハイキングABC』を使用し、実技講習では、大山（伯耆富士）や谷川岳で修了山行を実施している…という会もありました。

<感想>

入会して間もない人はともかく、数年たっても『連れて行ってもらう人』であって、いつまでたっても自立した登山者にはなれない…と思います。

『主従』の関係ではなく、『一緒に行く』という考えを会に浸透させ、山行の企画段階から会員全員が希望を出し、話し合い、年間の会山行を決め、実施していくことが求められているのでは…と再認識しました。

私が所属している会では、山行内容にもよると思いますが、基本として、会員全員が、年2回の会山行を担当し、アクセス方法、登山コース、宿泊施設、費用などの多くのことを、インターネットや他の会員から情報を入手し、自分なりに調べることから始めるようにしています。必要があれば、下見をする場合もあります。

山行に主体的に参加できるようになり、更に経験を積むことにより、自立した登山者に成長してくれるのでは…と期待しています。年齢は関係ありません。

3) 新人教育をどのように進めるか？

会の中で対応する部門を設け、カリキュラムに沿って講習を実施している会もあれば、山行を繰り返しながら何となく手探り状態で行っている会もあるようです。

悩んでいる会からは、資料や具体的な方法などの提供依頼発言もありましたが、「一言では言えない…」ということで、会の自慢話(?)をしてしまう人もいるように感じたことは残念でした。私も聞きたかったです。

<感想>

会員数や会としての目指す山行形態によって、方法は異なっても当然ではないか…と思います。会員同士が意見を言い、お互いを尊重しあいながら、新人の要望にどのように応えていくかを常に話し合う中から、その時に考えられるベストな方法を繰り返していくことで、自ずとその会独自の適切な方法が見いだされるのでは…と思います。王道はないと思います。

勿論、これを進める際に、他の会の情報（状況）を参考にすることは、非常に大切なことと思います。(2021/6/29/Tue.)

全国ハイキング活動者会議参加報告・その他

田中 康男（千葉県連ハイキング委員長）

北海道の、出来て間のないスマイル・マウンテン・クラブ（3年だったか）が活発に活動している会の発表がありました

大変活発で バリエーションに富み 冬も山行されていました。（写真も綺麗でした）

現役時代に転勤族から伺った話ですが、

「北海道に転勤が決まって泣き、その後、他の地に転勤が決まり泣く」（二回泣くと）身近に自然が感じられ 公園ですら素晴らしい という言葉を思い出しました。移住しても良いかな

西山ハイキングクラブ（京都）の発表も印象に残りました

会には、個人山行は無く会山行が月に20回もあります。ホームページと紙の会報が100ページもあるとの事です。

コロナ禍での自分の会と比較すると、個人山行でやや強い人・やや力の無い人をカバーしようとはしましたがどうしてもグループ化されました。（西山HCの表現 そこで会報で全員に 手渡し含み 知らせる）されました

スマイルMCのようにラインでつながっているのもグループ化が防げ 羨ましく感じました

今回の参加は「全国事務所はどんな所かなー」との目的もあって参加しました。

以前、東京都連が企画した、「玉川上水」を歩いてはまって「神田上水」「野火止め用水」などを数回歩いています

全国連盟は、神田川のすぐ脇にあり、今迄に（多分）数回かすめていました。しかし、少し迷いました（スマホが使いきれていない？）

私のかみさんの生地は、近くの江戸川小学校脇なので帰って話したら懐かしがられました

（現在の神田川は統合したもので、井の頭から神田上水 関口・大洗堰で取水後江戸川、現在の江戸川はたしか太日川だったと?）

（馬場のなごりの区画が残っています。大曲の先の細長い区画、地図で分ります）
6月25日「房総のやまあるき」内田栄一・川崎勝丸著を参考に、木更津ふわくメンバーの案内で大貫漁港（駐車）から海岸を歩いて佐貫近くから東京湾観音に上がり帰りは案内書のとおり海岸線山道を歩きました。

山道は、ほどほどに荒れていて顔で草木をかき分ける事たびたび、遠くの景色は見えない状態でした。

それでも草刈りしている人に会いました（高岩山・鋸山・三舟山・でも）

海岸線と観音様からの景色はすばらしい 駅からハイキングに良いのでは（満潮と南西の強風には要注意

2021 ハイキング活動アンケート集計結果

2021 年 6 月 26 日 ハイキング委員会

○実施期間 2021 年 4～5 月

○回収会数 108 会

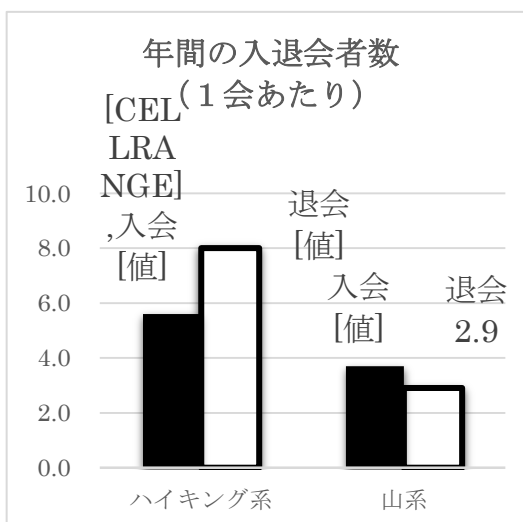
うち、2020 年 11 月加盟の「みやぎトレッキングクラブ」は 2020 年の活動実績がないため除外し、残り 107 会を集計。なお、全国ハイキング委員会からアンケートのお願いをした会以外の山岳会等からも、多数のご回答をいただいた。また、新日本スポーツ連盟加盟の「ハイキングクラブ山好会」（三重県）からも回答をいただいた。

○回収会の分類（会員数は 2020 年 11 月末調査数による）

※各会の登山志向について、田上ハイキング委員長がこのアンケートを要請した会（ハイキングクラブ・ハイキング層がいる会＝H 系）と、それ以外（山岳会・アルパインクラブ系＝山系）に分類した。若干、分類に異論があるかもしれない

- ・ハイキングクラブ・ハイキング層がいる会＝H 系 76 会
- ・山岳会・アルパイン系クラブ＝山系 31 会

	会数	会員数 合計	1 会あたり 平均会員数
H 系	76 会	5017 人	66.0 人
山系	31 会	895 人	28.9 人
全体	107 会	5912 人	55.3 人



	2020 年に 入会者のあ った会 A	入会者 の数 B	1 会あたり 入会者 B/A	2020 年に退 会者のあっ た会 C	退会者 の数 D	1 会あたり 退会者 D/C
H 系	65 会(85%)	364 人	5.6 人	73 会(96%)	587 人	8.0 人
山系	25 会(80%)	93 人	3.7 人	28 会(90%)	81 人	2.9 人
全体	87 会(81%)	457 人	5.2 人	101 会(94%)	668 人	6.6 人

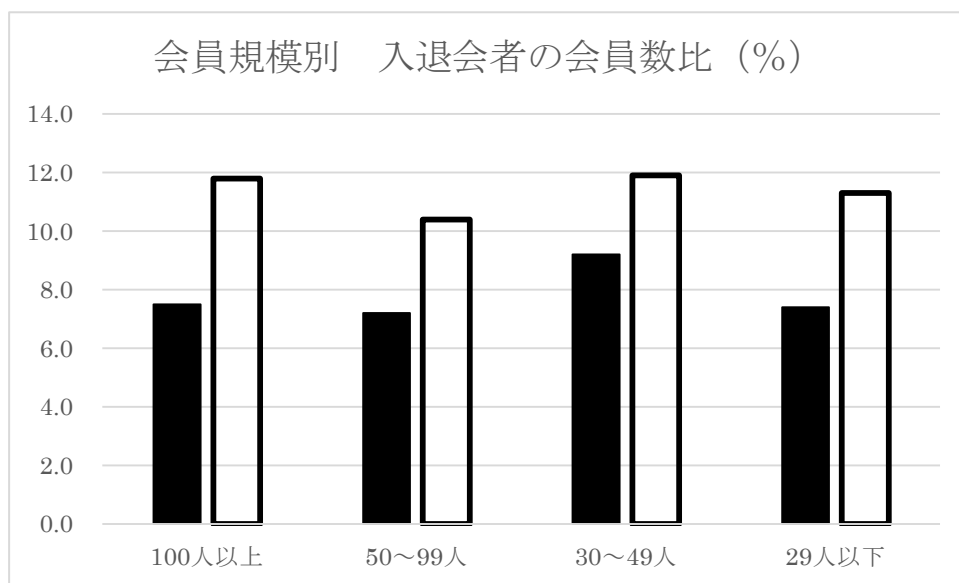
やはり、ハイキング系の会の方が会員数は大きい。注目すべきは、2020年というコロナの年にもかかわらず、9割以上の会で新入会員を迎えていることである。1会あたりの平均新入会員数は6.6人にもものぼる。コロナという厳しい状況のなかでも、新入会員がいたということは、会の継承発展のうえで、重要なことである。

他方で退会者も多く、差し引きでは会員数減少となっている。しかし、山系では、入会者数が退会者数を上回っている。ハイキング系では、10人以上の大量退会があった会もめだち、50人、36人という会もあった。会員が高年齢化しているとはいえ、なぜ大量の退会者を食い止められなかったのか、もう少し検討が必要かもしれない。

○会の規模別 入退会者数

こうした入退会の状況を、会の規模別や、入会者の年代で調べてみた。

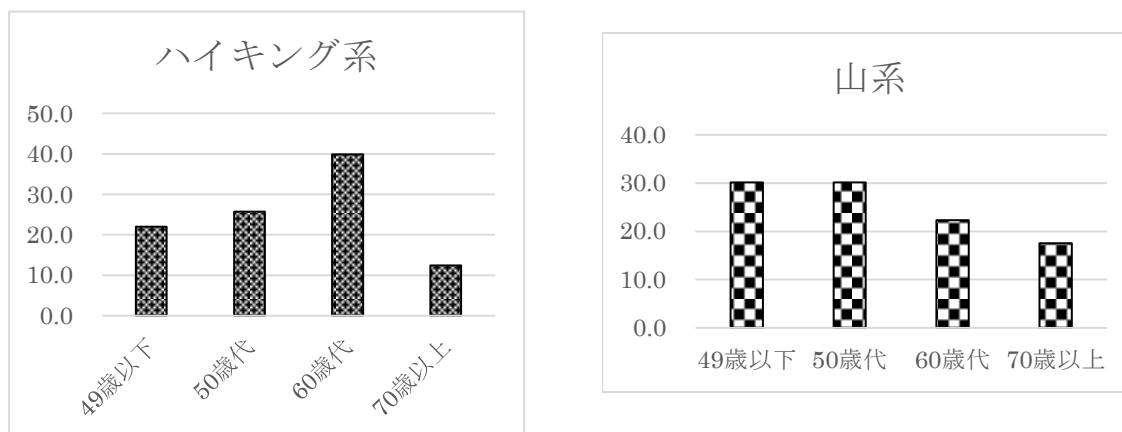
会の規模	会数	会員数 合計 A	入会 者数 B	入会者の% B/A	退会 者数 C	退会者の% C/A
100人以上	15会	2296人	174人	7.5%	272人	11.8%
50～99人	31会	2009人	145人	7.2%	208人	10.4%
30～49人	27会	1023人	95人	9.2%	122人	11.9%
29人以下	34会	584人	43人	7.4%	66人	11.3%



こうして会の規模別でみると、どの規模でも会員総数に対する入退会者の比率は大差がなく、年間に会員総数の7～9%が入会し、10～12%が退会するということのようなのだ。こうした観点からみると、大量の退会者数を出した会も、会の規模が大きかったからと言えなくもない。

○新入会者の年代構成

新入会者の年代構成についても、聞いてみた



これについては、H系より山系の方が、やや年代が若いようである。しかし、H系でも、47%は50代以下だ。

○新入会者はどこから入会したか（複数回答:OK）

会数を分母に、%で表示した。複数回答ありのため、合計が100%を超える。

	チラシ	ホームページ	バスハイク	教室	その他
H系	25.6%	78.2%	9.0%	30.8%	22.8%
山系	32.3%	58.1%	9.7%	35.5%	61.3
全体	28.8%	73.8%	9.3%	32.7%	48.6

ダントツで多いのがホームページである。次に多いのが「その他」だが、これには「会員の紹介」「自治体の広報掲載」などがあげられている。バスハイクは入会者獲得の手段としては、あまり実施されていないようである。意外と多いのが「登山・ハイキングの教室」である。コロナで困難があるなかだったと思うが、3割の会が、これで新入会員を獲得しているようだ。「教室」を開催することは新しい会員を獲得するためにも、重要だといえる。

○コロナで、ほとんどの会が「大きな影響を受けた」

質問4は、コロナで会活動にどの程度影響を受けたかについて聞いたが、これに地域差があるかどうか、大都市部と、それ以外に分けて集計してみた。

※大都市部に分類したのは、北海道道央地区、首都圏 1 都 3 県（東京、埼玉、千葉、神奈川）、愛知県、関西 3 府県（京都、大阪、兵庫）である。福岡県は、回答のあったのが大牟田 HC だけで、地方都市であるので、これに含めなかった。

コロナによる影響

	会数	大いに影響	多少は影響	影響なし	
大都市圏	59 会	53 会 90%%	6 会 10%	0	
それ以外	48 会	36 会 75%	9 会 19%	1 会 2%	無答 2 会
全体	107 会	89 会 83%%	15 会 14%	1 会 1%	

ほとんどの会が「コロナ」で大きな影響を受けている。しかし、細かく見ると、大都市部より、それ以外の地域の方がやや影響が少ないようだ。まったく影響を受けていない会が 1 会だけあったが、この会はもともと少人数で近郊の山を歩いており、車に相乗りしないようにしたため、「影響なし」ということだった。

コロナで、影響を受けた時期

	会数	2020/4～6	2020/7～12	2021/1～
大都市圏	59 会	57 会 97%%	45 会 76%	50 会 84%
それ以外	48 会	43 会 90%%	32 会 67%	24 会 50%
全体	107 会	100 会 93%%	77 会 72%	74 会 69%

全国一律で緊急事態宣言が去年 4～6 月の出された期間は、ほとんどの会が影響を受けている、しかし今年 1 月以降は、緊急事態宣言等が大都市部に集中していたため、それ以外の地域では影響が約半分に下がったようだ。

○コロナで、どんな影響を受けたか

	会数	山行企画 を中止	行先を自県 や近隣限定	交通手段は マイカーのみ	例会（屋 内）を中止	会議を中 止
大都市圏	59 会	56 会 95%%	25 会 42%	9 会 15%	46 会 78%	32 会 54%
それ以外	48 会	44 会 92%%	34 会 71%	16 会 33%	30 会 62%	26 会 54%
全体	107 会	100 会 93%%	59 会 55%	25 会 23%	76 会 71%	58 会 54%

各会で、具体的にどんな影響がでたかを聞いたところ、ほとんどの会がハイキングや山行の企画を中止していた。定例集会（例会）の中止は大都市部が多いようである（会場が閉鎖され、使用ができなかったこともある）。

ハイキングや山行の行き先を自県や近隣県に限定したり、交通手段をマイカーに限った会は、やはり大都市部よりその他の方が多い。会のなかの様々な会議の中止もかなりの会で行なわれ、その分、メールでのやりとりや SNS、パソコンでのリモート会議が急速に普及したようである。

県連予定表

7月			8月		
日付	曜日	会議・イベント	日付	曜日	会議・イベント
1	木		1	日	
2	金		2	月	
3	土	全国救助技術交流集会（福岡）	3	火	
4	日		4	水	
5	月	役員会19：00	5	木	
6	火		6	金	
7	水		7	土	
8	木		8	日	山の日
9	金		9	月	振替休日
10	土	全国自然保護講座（京都）	10	火	
11	日		11	水	
12	月		12	木	
13	火		13	金	
14	水		14	土	
15	木	理事会19：00～ 西部公民館（予定）	15	日	
16	金		16	月	
17	土		17	火	
18	日		18	水	
19	月		19	木	
20	火		20	金	
21	水		21	土	
22	木	海の日	22	日	
23	金	スポーツの日	23	月	
24	土		24	火	
25	日		25	水	
26	月		26	木	
27	火	教遭委員会 19:30～ オンライン会議	27	金	
28	水		28	土	
29	木		29	日	
30	金		30	月	
31	土		31	火	

会行事・山行を楽しんで下さ
8月は役員会・理事会・各委員会はお休みで

事故発生時の連絡先

◎事故一報は事故発生後一か月以内に！

◎全国連盟と県連教育遭難対策委員会の両方にメールまたはファクスで！

全国連盟事務局

メール： jwaf@jwaf.jp

ファクス： 03-3235-4324

県連教育遭難対策委員会

メール： itou2385@yahoo.co.jp（伊東）

メールのみとします

連盟費の振込先はこちら！

郵便振替口座 00160-3-481509

千葉県勤労者山岳連盟

（ゆうちょ銀行 〇一九店 口座番号0481509）

発行者： 千葉県勤労者山岳連盟

発行責任者： 広木国昭

住所： 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18 レジデンス幕張台 101号室

電話： 043-306-1190

E-mail： rousanchiba@grape.plala.or.jp

HP： <https://www.cwaf.jp>